

区内各地にこいのぼり

子どもの日を前に、区内各地では子どもたちの成長を願って、こいのぼりが大空を泳いでいます。26日、区が妙正寺川の落合橋付近に、大小30あまりのこいのぼりを設置しました。ここは、妙正寺公園に隣接しています。もう一つは、堀ノ内一・二丁目町会が毎年開催している「善福寺川鯉のぼりの川渡し」で、こちらにも60あまりが大空を泳いでいます。

こいのぼりは、昨今の都会の住宅事情では、本物を空高く泳がせることは困難になっています。ただし、子どもたちの健やかな成長を願う気持ちは、今も昔も変わりません。そこで、自治体や町会がこの時期に、こいのぼりの設置やイベントを行うケースが増えています。

杉並区が10年ほど前から行っているのが、妙正寺川の落合橋付近のこいのぼりの設置です。この場所は、区内在住でノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊さんの名を冠した小柴ロードとも呼ばれる散策コースの中にあります。ここの飾りつけは、遊歩道沿いの柵にロープを渡し、こいのぼりの胴体の中を貫通させているため、風の影響なく力強く泳ぐ姿が特徴です。展示は5月9日まで。



もう一つは、「善福寺川鯉のぼりの川渡し」（堀ノ内1-19付近）です。こちらは、平成11年から実施しているもので、この地域の堀ノ内一・二丁目町会が、こいのぼりが大空を泳ぐ景色を後世に引き継ぐとともに、地域の子どもの地域のみinnで育てて行くことを目指し行っています。

今年も例年同様、60あまりのこいのぼりが川の風に吹かれて泳いでいます。こいのぼりは、町会の住民の家に眠っていたものを活用して始めましたが、年月が経過する中で、こいのぼりは色あせたり破れたりしたため、少しずつ買い足すなどしてきました。最近では遠方の方から、子どもが大きくなりダンスや物置の中で眠っているこいのぼりを再び大空に泳がせてほしいと寄付されたものも含まれています。会場は、地下鉄丸ノ内線方南町駅から徒歩8分です。善福寺川の熊野橋や紅葉橋からの眺めが最高で、5月5日まで見ることができます。

